中日ニュース

シネスコ版

中日新聞ニュース No.114　1,400人の鼓笛隊(山口) 109m
高知新聞ニュース No.313　本編同じ 8　(本編トップへ追加)
新愛媛新聞ニュース No.141

No. 477　38.3.15

一、ニセ札犯人消える

——静岡

にせ千円札の新種が静岡県下で相ついで発見されました。中でも三月六日夕刻静岡市で発見されたものは、犯人が使用してから三十分後に発覚。静岡県警は全県下の警官を総動員して大捜査網を敷いたのです。

今度こそ犯人逮捕のチャンスと警察ばかりか全県下の住民たちがいろめきだちました。

しかし一週間にわたって静岡市内を中心にしらみつぶしの捜査が行なわれましたが犯人の足どりはまったくつかめません。

しかし今秋からは新千円札に切り換えられるだけにせ札捜査もいよいよ大詰めを迎えたようです。

特集

恐怖の新薬禍

一、十字架の子ら

——東京　大阪　愛知

嵐のようにヨーロッパを襲ったサリドマイド禍は日本にも大きな波乱をもたらしました。手足が異常となるアザラシ状奇型児がすでに五百人も発見されたといわれています。

日本は世界に誇る「薬王国」。医師の指示に従って使用すべき薬品がスーパーマーケットで気軽に買えるありさまです。

むやみやたらに薬品を使用するため、最近は薬品の副作用による患者が急増しているのです。しかしアザラシ状奇型児ばかりでなく内ぞうの奇型児が最近では百人に一人の割で出生。このため新生児の死亡率が非常に高くなっているという恐ろしい状況が明らかにされたのです。そうこうしているうちに今度は西独の製薬会社から流産防止薬「プロルトン」が胎児に影響を及ぼす危険があると販売中止を通達。厚生省の知らぬ間に薬品を回収してまた一波乱。一体薬品を監督するはずの厚生省は、どのように考えているのでしょうか。新薬に認可を与えるのは厚生省の仕事。

新薬ブームで一年に五千件もある許可申請書類を調べるために僅か六人の係員がテンテコマイ。動物実験の施設は持たず業者にまかせっきりなのです。

こうした中で不幸にもサリドマイド禍による奇型児を持ってしまった親達は、大挙して大阪の製薬会社に乗り込み、涙を流して、その補償を求めました。しかし会社側も不可抗力とただ迷惑顔をするだけです。問題の厚生省では広範囲な新薬禍の調査はおろか、サリドマイド問題の事情処理すら全く立遅れ、この事が今では大きな社会不安にまで発展しようとしているのです。

669m　460m　107m

製作配給　東京中日新聞　中部日本ニュース映画社